

北海道支部だより

持続可能な雪対策に向けて

札幌市建設局雪対策室長
土井 勝雄



東京オリンピックのマラソンと競歩が札幌開催となり、さあ今年は皆で盛り上げよう！といった機運が高まる時期のはず…だったのだが。

昨年暮れ、新型コロナウイルスによる人への感染が確認され、今では世界各国に広がりを見せている。道内では今年2月に鈴木直道知事から国内初の緊急事態宣言が出されるなど、人の動きも制御され、小・中学校等も休校になるなど、これまでにない感染対策がとられている。

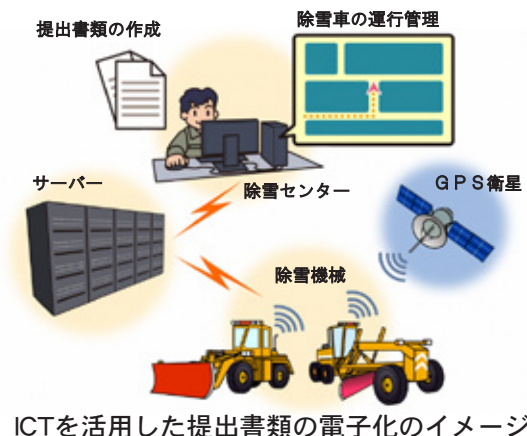
ただ、こうした状況下でも、様々な場面でAI（人工知能）やICT（情報通信技術）といった言葉をよく耳にする。中国では、肺のCT（コンピュータ断層撮影）画像や顔認証・温度センサーから感染者を発見するプログラム開発へのAI活用。日本でもICTを用いた在宅ワーク（テレワーク）や小中学校の教材メーカーによる自宅での勉強支援。東京オリンピックでは、複雑な体操競技への自動採点や観客移動を緩和するシステムへの導入など。まさに、環境や時代の変化に柔軟にAIやICTを対応させ、暮らしをより豊かに便利にする技術が、私たちの日々の生活の中にすでに溶け込んでいることを実感する。

札幌市では、国土交通省の「i-Construction」のコンセプトを活かした「札幌市ICT活用戦略」を2016年に策定し、積極的にICTを活用することで様々な課題にチャレンジし、改善していくといった取組を進めている。

私たち雪対策室でも、一昨年に今後10年の新たな雪対策の基本計画である「札幌市冬のみちづくりプラン2018」を策定し、「安心・安全で持続可能な冬の道路環境の実現」といった目標に向け、ICTを基軸とした取組をはじめたところである。

具体的には、少子高齢化の進行や除雪従事者の不足など、札幌市が抱える課題に対し、ICTを活用することで“除排雪作業の効率化・省力化”や“除雪従事者の労働環境改善”などを目指し、今年度からその先駆けとして「除雪作業日報の電子化」の取組に着手している。

この取組は、これまで手入力や手書きで作成していた作業日報について、GPS受信機を取り付けた除雪車両を配置し、その位置情報をデータ化することで車両運転日報やチャート紙等を自動で作成でき、これまでの作業時間や労力を短縮するといったものである。また、除雪車の運行管理面でも、車両の位置情報がリアルタイムに把握できるため、効率的な作業指示や迅速な市民対応などに結び付く可能性があるとして大いに期待しているところである。



今年度は120台の除雪車両で試験運用を行っているが、今後3年かけて札幌市の全除雪車両（約1,000台）に導入し運用する計画である。この他にも、除雪作業経路のナビゲーションシステムの構築や電話対応のコールセンター化など、取組の熟度に応じたシステム展開を描いているところであり、除雪事業者の協力を頂きながら、継続的に検討を深めていきたいと考えている。

少子化や高齢化が進む中、持続可能な雪対策を実現するためには、AIやICTといった日々進化する最新技術の動向に目を向けながら、柔らかな頭で雪に向き合う姿勢が何より大切なのだと思う。

最後に、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を切に願う。

国土交通省土木工事標準歩掛及び建設機械等損料算定表の改定

北海道開発局 事業振興部機械課

1. 土木工事標準歩掛の改定

公共工事の積算にあたっては、標準的な工事価格が算定できるよう「工事の施工実態調査」を行い、その結果を反映した各種積算基準を整備しています。

土木工事標準歩掛は、土木請負工事費の積算に用いる標準的な施工条件における単位施工量当り若しくは日当りの労務工数、材料数量、機械運転時間等の所要量を工種毎にとりまとめたもので、「工事の施工実態調査」の結果を踏まえ、新規工種の制定及び既存制定工種の改定を行っています。

施工パッケージは、土木請負工事費の積算に用いる標準的な施工条件における機械経費、労務費、材料費を含んだ単位施工量当り「単価」を施工パッケージ毎に設定したもので、「工事の施工実態調査」の結果を踏まえ、施工パッケージ単価の改定を行っています。

(1) 土木工事標準歩掛の改定概要

令和2年度の改定では、新たに1工種が制定されました。また、維持修繕に関する歩掛の改定が2工種、「日当り施工量、労務、資機材等の変動に伴う改定」が11工種で行われました。以下、概要を紹介します。

○新規制定工種

①トンネル補修工（ひび割れ補修工）

〔工法概要〕

トンネル内のコンクリートに発生したひび割れ部分に対して、シーリング材を塗布後、圧縮空気、ゴムやバネの復元力などを利用して加圧できる専用器具を用い、補修材料を注入する工法です。



ひび割れ部の清掃



注入材の注入状況



注入材の注入状況（全景）



施工完了（補修完了）

○維持修繕に関する歩掛の改定工種（2工種）

①トンネル清掃工

＜使用機械の見直し＞

トンネル清掃車の清掃ブラシが1本から2本仕様となり、清掃ブラシを上下に設置し1回の清掃で多くの壁面清掃に対応するようになったため、規格の見直し

トンネル清掃車 1本ブラシ→2本ブラシ

＜作業時間＞

清掃ブラシが2本仕様となり、ブラシを上下に設置しながら壁面清掃を行うことから、トンネル内設備等の障害物などを確認しながら行うことが多くなったため、作業時間が低下

②道路除雪工

＜適用範囲の見直し＞

・薬剤積込、人力散布の廃止

＜編成人員の見直し＞

・除雪作業世話役が運転手労務1／5から1／3へ見直し

○日当り施工量、労務、資機材等の変動により改定を行った工種(11工種)

①仮橋・仮栈橋工

下部工や上部工における主要部材のユニット化やプレートガーダ等の大型化主要部材使用による見直し

覆工板、導枠施工における施工軽減治具類の活用による見直し

②架設支保工

供用日増加に伴う、仮設材経費の増加

③ウェルポイント工

ウェルポイント設置・撤去を2つに区分(100本未満と100本以上に区分)

④コンクリート工（砂防）

機械施工による既設堰堤等へのチップングを新規設定

⑤鋼製砂防工

「バットレス型砂防堰堤」を新規設定

⑥連続鉄筋コンクリート舗装工

「目地切り・清掃」を新規設定

⑦P C橋片持架設工

供用日増加に伴う、仮設材経費の増加

⑧トンネル工（N A T M）(発破工法)

⑨トンネル工（N A T M）(機械掘削工法)

⑩小断面トンネル工（N A T M）

⑪トンネル工（N A T M）仮設備工（防音扉工）

トンネル工では、⑧トンネル工（N A T M）発破工法、⑨機械掘削工法⑩小断面トンネル工、⑪仮設備工（防音扉）の改定を行っています。

【工法概要】

山岳トンネルの標準的な施工法で、火薬による発破や機械により掘削を行い、掘削直後に吹き付けコンクリートやロックボルト等を地山に密着して施工し、地山と一体化した支保構造を作る工法。

【改定概要】

○適用範囲の見直し

- ・非常駐車帯工、坑口工（DⅢ）を統合し、「通常断面」と「大断面」の区分を設定
- ・設計掘削断面積95㎡→130㎡まで適用拡大

○使用機械の見直し

鋼製支保の建込作業がドリルジャンボから、コンクリート吹付機（エレクトラ装置付き）に変更となった。これにより、これまで掘削～吹付～鋼製支保建込の作業で発生していた施工機械の入替作業が不要となり、作業効率が上昇。

現行：掘削（ドリルジャンボ）→吹付（コンクリート吹付機【エレクトラ装置無し】）→鋼製支保建込（ドリルジャンボ）

改定：掘削（ドリルジャンボ）→吹付・鋼製支保建込（コンクリート吹付機【エレクトラ装置付】）

○その他

- ・積算の簡素化のため、スライドセントル、防水作業台車における機械経費（損料）の計上方法を「基礎価格×損率」から「算定式」に見直し

（2）施工パッケージ関係歩掛の改定概要

令和2年度の改定では、「維持修繕に関する歩掛の改定」が2工種、「小規模区分に関する改定」が1工種、「日当り施工量、労務、資機材等の変動に伴う改定」が9工種で行われました。以下、概要を紹介します。

1）維持修繕に関する歩掛の改定【2工種】

①塵芥処理工

＜使用機械の見直し＞

堆積塵芥の積込収集バックホウ

(山積0.28m³) →
掴み装置付きバックホウ (山積0.45m³)
堆積塵芥の運搬ダンプトラック
(2 t 積級) →ダンプトラック (4 t 積級)
＜編成人員の見直し＞
掴み装置付きバックホウを使用すること
に伴い、補助作業 (普通作業員) の減少
＜日当り施工量の見直し＞

積込収集作業の効率化及び運搬車両の大型化による日当り施工量の増加

②スノーポール設置・撤去工

＜編成人員の見直し＞
カーブや傾斜が多い山間部に比べ、施工
がしやすい平地部の市街地施工が多くな
ったため、編成人員が減少
＜日当り施工量の見直し＞

施工効率が良い市街地の施工が多くなり、
移動時間も短くなったため、日当り施
工量が増加

2) 小規模区分の新設【1工種】

①土工 (砂防)

＜歩掛区分の見直し＞
小規模施工 (施工土量100m³未満又は平
均施工幅2m未満) を新規設定

3) 日当り施工量、労務、資機材等の変動により改定を行った工種【9工種】

①機械土工 (残土受け入れ地での処理)

ブルドーザ (普通) 15 t →
バックホウ (山積0.8m³級)

②安定処理工

敷均し作業：モータグレーダ (3.1m級)
→ブルドーザ (湿式) 7 t 級、保有区分：損
料→賃料

③基礎・裏込砕石工

基礎・裏込栗石工、採取小割の廃止

④排水構造物 (管 (函) 渠型側溝

歩掛区分の見直し

⑤透水性アスファルト舗装工

歩道施工幅2.4m以上においてAsフィニッ
シャの規格が大型化
フィルター材の投入作業：ダンプアップ→
バックホウを用いた施工

⑥路側工 (取外し)

小型バックホウ排出ガス対策型1次基準値
→2次基準値

⑦橋梁付属物施設設置工 (橋名板取付)

取付け対象物の拡大 (親柱、高欄→高欄、
橋桁、橋台、橋脚)

⑧橋梁付属物施設設置工 (橋梁用高欄)

アルミ製高欄を追加

⑨橋梁付属物施設設置工 (排水柵)

FRP製の排水柵を追加

施工パッケージ型積算方式については、当積
算方式の理解向上に資するため、施工パッケー
ジ標準単価の代表機材規格のうち、代表機械
規格及び代表労務規格の参考数量を「施工パッ
ッケージ型積算方式標準単価表 (参考資料)」と
して、国土技術政策総合研究所HPに掲載され
ています。

2. 建設機械等損料算定表の改定

建設機械等損料算定表の改定は、建設機械等
を所有する工事受注者に対して稼働状況等の実
態調査を行い、既存制定機種の損料改定及び全
国的に普及した機種・規格の新規制定を隔年毎
に行っています。

(1) 建設機械等損料算定表の改定概要

令和2年度の改定では、基礎工事用機械、
鋼橋・PC橋架設用仮設備機器、建設用ポン
プ等の買い換えが進み、基礎価格が若干上昇
しました。

ブルドーザや掘削機械の一部の建設機械で
は買い換えが進み、維持修理費が若干減少し
ました。

ダムのプラント設備やダム施工機械につい
ては、買い換えが進まず使用年数が増加して
設備等の機能を維持するため整備修理費が増
加しています。

全体的には、運転1時間当り換算値損料額
及び供用1日当り換算値損料額が全体平均で
若干上昇しています。

おわりに、「工事の施工実態調査」、「建設機械
の稼働、修理費等に関する調査」については、工
事受注者等に対して調査を依頼しています。引き
続きご協力のほどお願いします。

令和２年度建設機械等損料算定表 機械分類別平均変動率表

(変動率：令和２年度／平成30年度)

区 分	基礎価格	標準 使用年数	年間標準 運転時間	年間標準 運転日数	年間標準 供用日数	維持 修理費率	年間 管理費率	残存率	運転１時 間当たり 換算値 損料 (13)欄	供用１日 当たり 換算値 損料 (15)欄
01 ブルドーザ及び スクレーバ	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.98	1.00	1.00	1.00	1.00
02 掘削及び積込機	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.97	1.00	1.00	1.00	1.00
03 運搬機械	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
04 クレーンその他の 荷役機械	1.00	1.01	1.00	1.00	1.00	0.99	1.00	1.00	0.99	0.99
05 基礎工事用機械	1.01	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.01	1.01
06 セン孔機械及び トンネル工事用機械	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
07 モータグレーダ及び 路盤用機械	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
08 締固め機械	1.01	1.00	1.00	1.00	1.09	1.00	1.00	1.00	1.01	0.93
09 コンクリート機械	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
10 舗装機械	1.01	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.01	1.01
11 道路維持用機械	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1	1.00
12 空気圧縮機及び送風機 (原動機を含む)	1.00	1.00	—	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00 ※1	0.98
13 建設用ポンプ (原動機を含む)	1.03	1.00	—	1.00	1.00	0.99	1.00	1.00	1.03 ※1	1.03
15 電気機器	1.00	1.00	—	—	1.00	1.00	1.00	1.00	—	1.00
16 ウインチ類	1.01	1.00	—	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.01 ※1	1.01
17 試験測定機器	1.00	1.00	—	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.02 ※1	1.00
18 鋼橋・ＰＣ橋架設用 仮設備機器	1.02	1.00	—	—	1.00	1.00	1.00	1.00	—	1.02
20 その他の機器	1.01	1.00	1.00	1.00	1.01	1.00	1.00	1.00	1.01	1.00
40 コンクリート生産設備 (ダム施工機械)	1.03	1.15	1.17	1.20	1.17	1.53	1.00	1.00	1.03	1.02
50 除雪用建設機械	1.01	1.00	1.01	1.01	1.00	1.00	1.00	1.00	1.01	—

※１ 運転１日当たり換算値損料

建設機械等損料表(北海道補正版)の発刊のお知らせ

令和２年度版 ５月発行予定

国土交通省「建設機械等損料算定表」の内容に準拠し、北海道地域での利用者のために豪雪地域の補正版となっています。

価格(税込み) 会員6,200円、非会員7,150円

同 参考資料

上記に損料表にない特殊機械等の損料を掲載しています。

価格(税込み) 会員2,000円、非会員2,000円

※購入申し込みはJCMA北海道HPをご確認ください。

<http://www.jcmahs.jp/>



「ウポポイ (民族共生象徴空間)」について

北海道開発局アイヌ施策推進課

1 はじめに

アイヌ文化の復興・発展の拠点となるナショナルセンターとして、本年5月29日、北海道白老郡白老町に誕生する「ウポポイ (民族共生象徴空間)」。

本稿では、開業を控えるウポポイの概要と魅力をご紹介します。

2 「ウポポイ (民族共生象徴空間)」とは

「ウポポイ (民族共生象徴空間)」は、アイヌの歴史、文化等に関する国民各層の幅広い理解の促進の拠点、将来へ向けてアイヌ文化の継承及び新たなアイヌ文化の創造発展につなげるための拠点として新たに誕生する施設です (写真1)。

アイヌ文化の振興や普及啓発については、これまで様々な取組が展開され伝承活動の裾野が拡大する一方、アイヌ語、伝統工芸等存立の危機にある分野があることや未だアイヌの歴史や文化等について国民理解が十分に得られていないなどの基本的な課題に直面しています。

このような背景を踏まえ、ウポポイは、「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」の報告 (平成21年7月) において、アイヌの人々が先住民族であるとの認識に基づき展開される今後のアイヌ政策の「扇の要」として提言されました。また、昨年成立・施行されたアイヌ施策推進法においても、ウポポイをアイヌ文化の振興等の拠点として位置づけるとともに、その効果的な運営のため、指定法人 (公益財団法人アイヌ民族文化財団) に管理を委託することとされました。

ウポポイは、長い歴史と自然の中で培われてきたアイヌの文化を多角的に伝承・共有すること、アイヌの人々の心のよりどころとなること、国民全体が互いに尊重し共生する社会のシンボルとなること、国内外の人々、子供から大人までの幅広い世代がアイヌの世界観、自然観等を学ぶことができるような機能を有する空間となることを目指しています。「ウポポイ」は正式名称である「民族共生象徴空間」の愛称でその意味はアイヌ語で「(おおぜいで) 歌うこと」。まさにこの愛称はこの理念を端的に表していると思います。

3 施設の概要

ウポポイは、大きく分けて「国立アイヌ民族博物館」(右頁、写真2)、「国立民族共生公園」、「慰霊施設」で構成されます。内閣官房が総合調整を図りつつ、国土交通省、文化庁と運営主体であるアイヌ民族文化財団が連携して施設整備と開業準備を進めてきました。



(写真1)「ウポポイ」全体イメージ

国立アイヌ民族博物館は、北日本初の国立博物館で、先住民族アイヌをテーマとした初めての国立博物館でもあります。国立民族共生公園は、最大約530名が収容できる体験交流ホール (写真3)、伝統的なアイヌ家屋である「チセ」群を再現した伝統的コタン (集落) (写真4)、体験学習館、工房などで構成され、多彩な体験プログラムを通じてアイヌ文化を楽しみながら学ぶことができるフィールドミュージアムとなっています。慰霊施設は、全国各地の大学等に保管されていたアイヌの人々の遺骨等について、アイヌの人々による尊厳ある慰霊を実現するための施設としてポロト湖東側の高台に整備されました。

4 伝統から最新技術までの多彩なコンテンツ

ウポポイでは、年齢を問わず楽しみながら学べる博物館の展示、各種の文化体験プログラム、夜間のプログラムなど、多彩なコンテンツをご用意しています。

(1) 好奇心を刺激する博物館の展示

博物館の基本展示室では、ことば、歴史、世界、しごと、くらし、交流の6つのテーマで約700点の衣類、生活用具、工芸品等が展示されます（写真5）。特別展示室では、アイヌ文化を伝承する人々の姿など様々なテーマの特別展が約2カ月おきに催されます。1階にある約100席のシアターでは、アイヌ文化を多様な視点から紹介した高精細の映像をご覧いただけます。また、展示物を簡単に紹介するギャラリートークをはじめ多様な学びの機会を提供します。なお、館内の解説パネルや音声ガイドはアイヌ語をはじめ日本語、英語、中国語、韓国語など最大8言語に対応しています。

(2) 楽しみながら学べる多彩な体験メニュー

体験型のフィールドミュージアムである共生公園では、バラエティーに富んだ体験プログラムをご用意しています。体験交流ホールではユネスコの無形文化遺産に登録されている「アイヌ古式舞踊」やアイヌの伝統楽器であるムックリ（口琴）、トンコリ（五弦琴）の演奏などを、最新の技術を駆使して舞台全体に映し出す美しい映像とともに鑑賞できます（写真6）。



（写真2）国立アイヌ民族博物館



（写真3）体験交流ホール



（写真4）伝統的コタン



（写真5）博物館基本展示室イメージ



（写真6）伝統芸能上演

体験学習館では、アイヌの暮らしの知恵と自然の恵みが詰まった食文化の体験をすることができます（写真7）。アイヌの伝統楽器を直接手に取って演奏の体験をすることができる（図表8）ほか、小さなお子さんでも遊びながらアイヌ文化を学べるキッズプログラムもご用意し

ています。

工房では、各地から招く工芸家等による様々な民芸品の製作を間近にご覧いただけるほか、木彫や刺繍の製作体験を通じて文様などに込められた意味やその背景となる歴史や世界観を学ぶことができます。

伝統的コタンでは、季節ごとに行われる様々な伝統的儀礼を公開します（写真9）。儀礼を通じて、アイヌの世界観や自然観、信仰などを五感で感じることができます。また、囲炉裏を囲んで来園者と交流を行いながらアイヌの唄や踊りを身近に体験することができます。さらに、伝統的製法で作られたアイヌの民族衣装を着て写真撮影などを行うことができます。

(3) 夜のウポポイを楽しむ光と音のプログラム

ウポポイは、10月末までの土日祝日と夏休み期間は20時まで営業します。このため、夜のウポポイをより魅力的に楽しんでいただけるよう、ここでもしか体験できない特別なプログラムをご用意しています。そのひとつがアイヌの物語をテーマにしたプロジェクションマッピングです。体験交流ホール壁面へのダイナミックな投影と園内に配置するLEDライトで装飾したオブジェ、それらと音楽が連動する演出を楽しむことができます（写真10）。

そのほか、ホール内では3次元CGで製作した臨場感溢れる短編映像を上映するほか、体験学習館ではVR（バーチャルリアリティ）による360度の映像体験をお楽しみいただけます。

(4) 複数の飲食施設とショップ

ウポポイ内には複数の飲食施設があります。レストランでは、窓から広がるポロト湖の眺望を楽しみながらアイヌ文化ゆかりの食材を用いた「現代版北海道アイヌ料理」を満喫できます。フードコートではアイヌや北海道の歴史・文化を食で表現した手軽なメニューのご提供を予定しています。さらに、エントランス手前の歓迎の広場ではアイヌ伝統料理等の軽食や北海道食材のスイーツを提供します。このほか、博物館にも公園を眺めながらくつろげるカフェがあります。

アイヌ民芸品やお土産品を扱うショップは博物館とエントランスの2カ所にあります。博物館のミュージアムショップでは、伝統的なアイヌ民芸品、現代アート作品、博物館オリジ



（写真7）アイヌ伝統料理の体験



（写真8）ムックリの演奏体験



（写真9）伝統的儀礼の公開



（写真10）夜のプログラムイメージ

ナルグッズ、アイヌ関連書籍などを、エントランス棟のショップでは、手ごろな価格の民芸品やウポポイのキャラクターグッズ、北海道土産などを販売する予定です。

5 営業時間、料金、交通アクセス

ウポポイの営業時間は基本的に9時から18時ですが、今年度の開業から10月末までの土日祝日と夏休み期間は夜20時まで夜間営業をします。なお、11月から3月までの冬季は17時までの営業となります。休業日は原則月曜日です。入場料金は大人が1,200円（団体（20名以上）は960円）、高校生が600円（同480円）、中学生以下は無料で、博物館と公園の共通券となっています。本年の1月31日からWEBやコンビニ端末での先行販売を開始したほか、お得にご来場いただける年間パスポートの販売も予定されています。

交通アクセスの向上については、国道36号の4車線化をはじめとした周辺道路整備や白老駅とその周辺のリニューアルが行われたほか、3月14日のダイヤ改正で「北斗」を含む計31本の特急列車が停車することになり、利便性が大きく向上しました。

6 地域の社会経済への効果

ウポポイの開業により、アイヌ文化の伝承と発展が図られ、国民理解がより深まることが期待されることはもちろんですが、そのプロセスを通じて、北海道の歴史と文化に対する認識が深化することも期待したいと思います。以前はよく、北海道は本州と比べて歴史が浅いと言われることもありましたが、アイヌ民族の存在とその文化形成の経緯を理解すれば、決して歴史が浅いわけではないことがわかっていただけるでしょうし、また違った姿が見えてくるのではないのでしょうか。道民をはじめ国民全体がこの認識を深めることで、わが国の多様性を理解し、ひいては多様な民族間の相互理解が求められる国際社会への関心や共生への認識が高まることにつながればと願っています。

また、ウポポイには、地域活性化の観点からも大きな期待が寄せられています。ウポポイは、年間来場者100万人をめざしていますが、来道観光客数や滞在日数の増加により様々な波及効果生まれることが期待されます。観光の本来の意味は「国（地域）の光（優れたもの）を観て学ぶこと」ということのようなので、道内はもとより国内外からは是非多くの皆様に足を運んでいただき、アイヌ文化を知ってもらいたいと思っています。この点、これまでも道内をはじめ多くの企業様にPRと誘客促進にご協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げたいと思います。また、開業

後に社員のアイヌ文化への理解向上のために研修旅行を考えているというお話も既にいくつかいただいております、とてもありがたいことと考えております。

さらに、白老町をはじめ、周辺の登別、支笏洞爺、ニセコ地域などには、魅力的な自然、温泉、グルメ、アクティビティが数多くあります。これら周辺エリアや道内各地との連携を密にして、地域全体としてウポポイ開業の効果が波及し、それにより更にウポポイへの関心が増えるという好循環を生み出し、北海道全体のブランド力が高まることを期待したいと考えています。

7 おわりに

開業を間近に控えたウポポイ。しかし、本番は開業後だと考えています。本誌は道内の企業様を中心に配布されているとお伺いしております。北海道、そしてわが国の新しい価値創造のナショナルセンターとして、ウポポイの発展を見守り、育てていただければと思います。まさに、多様な参画により「(おおぜいで) 歌うこと」ができれば幸いです。



ウポポイPRキャラクター「トウレツポん」

アイヌの人たちにとって大切な
オオウバユリ（アイヌ語でトッレフ）です

「ウポポイ」ポータルサイト
<https://ainu-upopoy.jp>

北海道開発局と日本建設機械施工協会北海道支部との意見交換会

(一社) 日本建設機械施工協会北海道支部

(一社) 日本建設機械施工協会北海道支部と北海道開発局との意見交換会は、令和2年3月16日に開催すべく、関係の皆様へのご案内や意見要望のとりまとめを行ったところですが、北海道内における新型コロナウイルスの感染者拡大や国土交通省からの「当面のイベント等の開催について(要請)」を受けて急遽中止とさせていただきました。

なお、本来であれば意見要望について活発な意見交換を行う予定でしたが、このような状況から、北海道開発局より個別に回答いただきましたので、本紙面にてご報告します。

事務連絡 令和2年2月26日
建設業関係団体の長 殿
国土交通省土地・建設産業局
当面のイベント等の開催について(要請)
新型コロナウイルス感染症については、今まさに、感染の流行を早期に終息させるために極めて重要な時期であります。
こうした考えの下、昨日、「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」が新型コロナウイルス感染症対策本部において決定されました。
その中でも記されている様に、イベント等の開催について、現時点で、全国一律の自粛要請を行うものではないものの、地域や企業に対して、感染拡大防止の観点から、感染の広がり、会場の状況等を踏まえ、開催の必要性を改めて検討するよう要請を行っているところです。
その上で、本日の新型コロナウイルス感染症対策本部において、内閣総理大臣より、「政府」といたしましては、この1～2週間が感染拡大防止に極めて重要であることを踏まえ、また、多数の方が集まるような全国的なスポーツ・文化イベント等については、大規模な感染リスクがあることを勘案し、今後2週間は、中止、延期又は規模縮小等の対応を要請する」とのご発言があったところです。
これを踏まえ、貴法人におかれては、本要請内容について、所属会員に周知徹底の上、適切に対応いただくとともに、可能な範囲でテレワークや時差通勤における勤務を積極的に認めるほか、多数の者が利用する施設内の館内放送による呼びかけ(※)の実施についてもご協力をお願いいたします。
※呼びかけの例 ・国土交通省、厚生労働省から新型コロナウイルス感染症対策に関するお願いです。 ・手洗い、アルコール消毒や咳エチケットは、感染症対策の基本です。このため、ご利用の皆様においては、館内におけるこれらの取組への協力をお願い申し上げます。

国土交通省からの要請文書

【意見要望に対する回答】

1. 建設機械(維持除雪機械)の購入、整備について

Q1 除雪機械の生産体制を早期に立案するため、発注情報の早期開示と将来の需要の見通し(特に少数特殊機種)の開示を要望する。

A1 発注の早期開示について、1月下旬頃より発注の見通しとして、件名と発注案件の概要を北海道開発局のホームページにて公表している。

また、本省等との調整から、これ以上早く発注の見通しや、公告を公表することができないのが実状である。なお、生産ラインや納期に支障が出るような場合、納入時期を遅らせることも検討するので、引き続き情報提供をお願いする。

Q2 今後の熟練オペレータ不足の観点から、除雪機械の安全確保のためのオプション装置や、操作の軽減化(パワーシフト式等)の仕様見直しを要望する。

A2 開発局においても今後想定されるオペレータ不足については危惧している。オペレータ不足の他、様々な除雪機械を取り巻く状況を総合的に判断し、必要に応じて仕様(仕様書)の見直しを検討する。

Q3 除雪機械の長寿命化対策として、シーズン前予防整備の徹底や補用部品の確保などが必要となるので整備予算の見通しや、今後の国土強靱化に向けた除雪体制の強化(特に除雪機械等の整備)に関する新たな施策等がありましたら情報提供をお願いする。

A3 過年度の整備及び故障実績を参考に、長寿命化を目的とした「効率的な予防整備」

を継続的に実施している他、防錆、対摩耗対策についても継続調査をしており、その結果を参考に今後導入を進めたいと考えている。

また、除雪体制の強化として除雪機械の早期更新を図るため、必要な予算の確保について引き続き努力していく。

Q 4 建設機械等の整備は単価契約で実施されているが、除雪機械の車検整備時期は、8～9月に集中するため、車検時期の分散や、書類の削減、簡素化についてさらなる取組を要望する。

また、除雪機械などは迅速な対応を求められることもあり、夜間や休日作業の割増、出張修理時の拘束時間やライトバン経費等を考慮した積算を要望する。

A 4 納入時期や除雪官貸期間を鑑み、現状は、12ヶ月点検車両を春～夏頃に整備し、車検車両は夏～秋頃に整備するよう分散化を進めている。

現場修繕（出張）に伴う拘束経費や書類簡素化等については、今後簡素化の検討を進め、経費等調査方法についても見直しを検討したいと考えている。

また、休日、夜間の労務補正等については、実情に応じて発注者と協議して頂くようお願いしたい。

2. i-Construction等について

Q 5 近年のICT工事の工種拡大に伴い、土工の一連工種として使用する3次元設計データを各工種ごと作成した場合、どこまで費用計上出来るか。

また、出来形管理費や電子納品費については別途計上の対象とはなっていないので、実態に即した経費の計上について要望する。

A 5 ICT付帯構造物設置工などのICT土工の関連工種として実施する工種は、土工と一体的に3次元設計データを作成し、施工においても一連で効率的に施工出来るよう実施要領等を整備したものであり、実施する場合は受発注者間におい

て、協議の上、施工して頂くようお願いする。

また、令和2年度からは3次元出来形管理や3次元データ納品に対する費用として、諸経費の補正がされる。

Q 6 開発局では、除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組「i-Snow」の中で先行的にロータリ除雪車で実証実験が行われているが、国道除雪の主力機械である除雪トラックへの拡大を計る場合には官サイドからのトラックメーカーへの技術開発要請も必要と思われるので、そのような機会を考慮して頂きたい。

A 6 除雪トラックの自動化については、現在は北陸地方整備局で、Gシャッターの自動化実証実験が行われ、この動向について「i-Snow」の中で情報共有されている。

「i-Snow」は、産学官民が広く連携し除雪現場の省力化に関する取組や情報共有を行う場として設立したプラットフォームであり、除雪トラックメーカーや計器メーカー等も構成員として参加しているので、機会があれば参加頂き意見交換をお願いしたい。

3. 工事における機械経費等の積算について

Q 7 工事における機械経費の積算において、現場で実際に使用した建設機械と標準積算上の機種が乖離する場合があるため、実態に即した標準歩掛の設定や積算条件等の改善を要望する。

A 7 工事における標準歩掛は、殆どの工種において施工の実態調査を実施して改訂が必要か動向を調査している。そして、改訂が必要な工種については、適宜改訂を行ってきている。

しかし、施工実績の少ない工種や、現場条件など、すべてに標準歩掛を適合させる事は難しいので、受発注者間で事前協議して頂き対応願いたい。

Q 8 建設機械損料表の基礎価格と一般市場価

格差が大きいものがあるが、どのように決定しているか伺いたい。

A 8 建設機械損料表の基礎価格を含む諸数値は、全国における各機械販売会社や工事受注者等へ調査依頼しており、その調査結果により改訂を行っている。

しかし、調査票回収が年々低下してきているので、今後も引き続き調査へのご協力をお願いする。

4. 土木機械設備について

Q 9 機械設備工事の入札公告において機械単体費の公表がされ、品質確保の点から効果が現れており、今後も継続をお願いしたい。また、大規模案件では技術提案を求める方式の採用を要望する。

A 9 機械設備工事における機械単体費の公表については、適切な契約手続きを確保するため、今後も継続する予定である。また、政府調達案件など一部の工事においては工事目的物の品質確保、工事の安全対策や総合的なコスト縮減に関する技術提案を求めている。

5. その他について

Q 10 開発局では災害時の情報についてホームページに公表しているが、今後も積極的な情報共有をお願いする。

A 10 北海道で発生した「平成30年北海道胆振東部地震」や、昨年の「令和元年房総半島台風」、「令和元年東日本台風」において、災害対策用機械、道路維持用機械の派遣など各関係機関のご協力を頂き大変感謝している。

今後も引き続き、ホームページやSNSを活用し、情報を積極的に発信していく。

Q 11 工事において、先端機械施工技術や安全装置が導入されやすい環境整備を要望する。

A 11 国土交通省では、新技術の活用促進を推進している。新技術に関する情報収集・共有及び、情報提供を図る「新技術情報提供システム（NETIS）」が有るので参考にされたい。

今回提出した意見要望に関する回答は以上です。

今年度の意見交換会は、急遽の中止で関係の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

来年度は、コロナウイルスの猛威も落ち着くことと思いますので、今年度開催出来なかった分を含め活発な意見交換が出来るように準備していく予定です。

今後も、引き続き会員の皆様のご支援ご協力をよろしくお願いします。

支部だより【新技術・新製品紹介コーナー】

原 稿 を 募 集

あなたの会社で開発または扱っている新技術・新製品をPRしませんか

【新技術・新製品紹介コーナー】は、会員会社が開発または扱っている新技術（NETIS技術）・新製品のPRの場として設けているもので、無料で掲載します。

次回、120号への掲載をご希望の方は、下記により原稿を送ってください。

記

掲載スペース等：原則としてA4版1～2ページとし、写真等は白黒・カラーいずれも可とします。

原稿提出期限：令和2年8月末日

提出先：〒060-0003 札幌市中央区北3条西2丁目 さっけんビル

一般社団法人 日本建設機械施工協会北海道支部

TEL 011-231-4428

FAX 011-231-6630

建設工事等見学会に参加して

㈱荏原電産 技術担当部長 國分 政幸

日本建設機械施工協会北海道支部主催の建設工事等見学会に参加する機会を得ましたので、紹介いたします。

見学会は10月15日、台風一過の半快晴のもと、総勢31名の参加にて、胆振の厚幌ダム、平取ダムを見学し無事終了することができました。

見学会の概要

- 09:00 J CMA支部前出発
- 10:45 厚幌ダム小水力発電設備
- 12:30 昼食（びらとり温泉ゆから）
- 13:45 平取ダムダムサイト、管理所
- 17:30 J CMA支部前到着

『厚幌ダム小水力発電設備工事』

小水力発電のクロスフロー型はテキストではお馴染みの設備で、「流量変化の大きい箇所に適する中小規模の水車、比較的安価」程度の知識を持っていましたが、現物とは初の対面です。現地見学の良さは、図面や画像を見るよりも一目瞭然で理解ができる点だと思います。

今回は現物を見て、最大発電量280kWの割にはスリムな形状、また、メンテナンスがし易そうな構造だと感じました。

農業事業では最近、全国的に小水力発電が推進されており、今後、本設備が土地改良区の財政に寄与することを願っております。



室蘭開建山口課長補佐の説明を聞く参加者



クロスフロー型水力発電

『昼食（びらとり温泉ゆから）』

昼食は「びらとり温泉のレストランゆから」で、びらとり和牛丼をご馳走になりました。

びらとり牛は20数年前にキャンプで訪れた際に、家族人数分のステーキを調達しようとして断念した因縁のある牛肉です。そのように思って食したせいか、大変美味しくいただきました。次回は妻同伴で訪問したいと考えています。「びらとり和牛丼」はこんな感じです。皆様も是非ともお試しあれ。



びらとり和牛丼

『平取ダム建設工事』

平取ダムは一度見学したいと考えていたもので、今回の見学会はグッドタイミングで大変興味深く拝見しました。

ダムサイトの打設は80%程度終了しているとのことでしたが、あまり圧迫感を感じなかったのは堤体の高さや、ダム下流から全景が見渡せないという特殊性によるものでしょうか。

高さ約10mの堤頂が200mほど続き、その先にダム最深部が配置される、見たことのない形状ですので、完成後には多くの視察者が訪れるだろうと感じました。また、ダム管理事務所内に設置されるアイヌ資料展示では、工事中ではありましたがレイアウトや、多くの見学者で賑わうことを想像しながら見学しました。

基本計画が変更になっているためか、完成予定年度や予算に関してのレクチャーはありませんでしたが、早期の供用開始を期待しております。

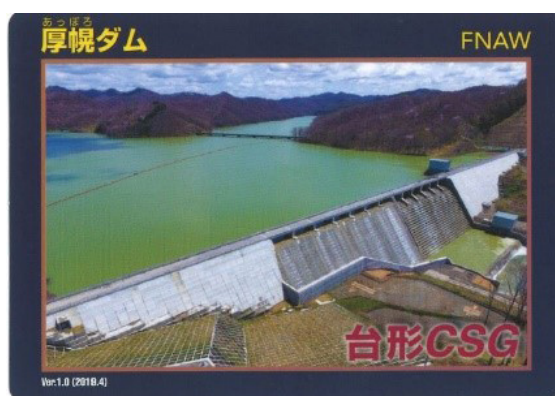
最後になりましたが、お忙しいなか説明をいただいた室蘭開発建設部の方々、工事受注者の方々、また、見学会の開催にご尽力をいただいた協会事務局の方々に感謝を申し上げ終わりたいします。



沙流川ダム建設事業所長原えん堤班長からの説明



平取ダム下流側からの建設状況



参加者全員頂いたダムカード



除雪機械展示・実演会、競技会 (2020ふゆトピア・フェアinとまこまい) 報告

J C M A 北海道支部

令和2年1月23日(木)、24日(金)の2日間、「2020ふゆトピア・フェアinとまこまい」の一環として「除雪機械展示・実演会、競技会」が苫小牧市出光カルチャーパークグラウンド等で開催されました。

この、除雪機械展示・実演会は北海道、東北、北陸の3地域が交代して開催しているもので、北海道では除雪機械競技会を同時開催しています。

開会式では、(一社)日本建設機械施工協会田崎会長の主催者挨拶、国交省の森下施工安全企画室長外8名の関係者によるテープカットで盛大に開催されました。

展示・実演会は23日、24日の両日にわたり、道内外15社の企業及び北海道開発局の16団体が一同に会し、最新の除雪機械・装置31点の展示を行い、来場された方々に広く紹介しました。

表-1 出展機械一覧

No	出展企業等(五十音順)	出展機械・機材		
		機 種	形 式	実 演
1	飛鳥特装(株)	Bossスノубラウ		○
		Hakoマルチカー		○
		Hakoシティマスター		○
2	(株)カナモト	タイヤショベル(0.4m ³)	接触防止センサー付	○
		ダンプトラック(4t)	折りたたみ式補助アオリ付	○
3	(株)協和機械製作所	除雪トラック	10t専用(6×6)	
4	(株)小松製作所	除雪グレーダ	GD405	
		除雪ドーザ	WA80	
		除雪ドーザ	WA30	
5	(株)タイショー	凍結防止剤散布機	ZS-300K	
		凍結防止剤供給機	ZP-90	
6	(株)ダイワテック	ソーラーシステムハウス	寒冷地仕様	
		現場監視カメラG-Cam02		
		電機バイク		
7	名古屋電機工業(株)	LED散光式警光灯		
		車載標識装置A		
		スマートフリックス		
8	新潟トランス(株)	小型除雪車	NR84	○
		小型除雪車(とらん丸)	NR32P	
9	ニシオレントオール北海道(株)	タイヤバックフォー		
		その他		
10	(株)NICHIO	ロータリ除雪車	HTR308A 2.2m級	○
		小型除雪車	HTR108 1.5m級、兼用式	
		凍結防止剤散布車	NWS40SS5 湿式、4.0m ³ 級	
11	範多機械(株)	凍結防止剤散布車	MS-25BIT	
12	日野自動車(株)	凍結防止用散布車用シャシ	FS1APJA	
13	フォレストテック(株)	オイルクイック クイックカブラー		○
14	矢野口自工(株)	ロータリ除雪車	ラドック	
		スノубラウ除雪車	ラドック	○
15	UDトラックス(株)	除雪車	CF5XL	
16	北海道開発局	ロータリ除雪車	i-Snow仕様	○



写真-1 開会式でのテープカット



写真-2 賑わいを見せる会場

2日間を通しての来場者数は、晴天に恵まれ、延べ約2,100名と多くの方々が来場され盛況でした。中でも初日は近隣の聖ルカ幼稚園、2日目は勇払幼稚園の園児が訪れ、歓声を上げていたのが印象的でした。

除雪機械の運転技術を競う、競技会（第4回チャンピオンシップ）は24日午後に開催され、胆振・日高地方の維持除雪業者10名とNEXCO東日本北海道支社より2名の総勢12名の選手で競われました。

競技は、1周約200mのコースにおいて除雪ドーザを操縦し、機械の点検、ブレード操作性、路側追従性、操縦性、車庫入れの5つの種目で行われました。

当日は、実況放送も行われ、熟練オペレータの
運転技術が約300名の来場者に披露されました。



写真-3 実演状況
(開発局i-Snow仕様ロータリ除雪車)



写真-4 間近で実演を見る園児たち



図-1 コースレイアウト図

入賞者には、苫小牧重機土木協同組合の藤田理事長より賞状とトロフィーが授与され、大勢の来場者から祝福されていました。また、優勝した紺田さんは表彰式後のインタビューで、この優勝結果を今後の除雪作業に活かしていきたいと語っていました。

(入賞者)

優 勝 紺田勇斗

(株ネクスコ・メンテナンス北海道)

準優勝 松田 稔

(株ネクスコ・メンテナンス北海道)

3 位 土輪岳弘

(株小金澤組)

今年1月の北海道は記録的な少雪で、また苫小牧地方は元来雪の少ない地域でもあり、除雪車の実演に使用する雪の確保に苦慮していましたが、開催直前に降雪があり近隣から雪を輸送し、無事実施できました。

大型除雪車の迫力のある実演や展示、また熟練の運転技術を競った競技会などをおとし、除雪作業に改めてご理解を頂けたのではないかと思います。

最後に、苫小牧市を始め関係各位のご協力に感謝致します。



写真－6 競技状況



写真－7 応援団



写真－5 木村機械課長の主催者挨拶



写真－8 表彰式

【出展各社のブース】



飛鳥特装(株)



(株)タイショー



(株)カナモト



(株)ダイワテック



(株)協和機械製作所



名古屋電機工業(株)



(株)小松製作所



新潟トランス(株)



ニシオレントオール北海道(株)



フォレストテック(株)



(株)NICHIO



矢野口自工(株)



範多機械(株)



UDトックス(株)



日野自動車(株)



北海道開発局

新 入 会 員 紹 介

(入会順)



日本マーキング株式会社

所在地	〒006-0002 札幌市手稲区西宮の沢2条2丁目2番30号		
代表者	代表取締役 中谷 一成	会社設立	昭和46年8月6日
TEL	011-666-8780	FAX	011-666-8781
URL	http://nihon-marking.co.jp/		
	営業所	北見営業所	

当社は、昭和46年より道路区画線標示・標識設置工事を社業とし、交通安全事業の進歩発展に寄与して参りました。近年は環境に優しい資材、商品、技術を取り入れ、社会の財産である道路や橋梁等の整備・維持に努めております。

《業務内容》

・一般建設業

とび・土工事業	塗装工事業
舗装工事業	土工事業
鋼構造物工事業	電気工事業

- ★工事 (標識、区画線、土木一式)
- ★製造・販売 (全天候型舗装補修材)



一般国道233号 区画線設置



一般国道231号 区画線設置



北 進 開 発 株 式 会 社

所在地	〒078-8273 旭川市工業団地3条2丁目34番地18		
代表者	代表取締役 中村 弘一	創 業	昭和60年10月
TEL	0166-36-7000	FAX	0166-36-8040
		E-mail	info@hokushin-kk.com
URL	https://hokushin-kk.wixsite.com		

「あなたの安心を創造する」をモットーに北海道内全域で事業展開している企業です。創業以来様々な分野で技術を磨き、お客様のニーズと期待に応えてまいりました。主体は塗装工事と土工事業ですが、今後もさらなる向上を目指し頑張っていきます。

《建設業許可》

北海道知事許可 (特-27) 上第4106号
土工事業/とび・土工事業/塗装工事/舗装工事

《警備業》

認定番号 第12000165号

《事業内容》

道路区画線工事	道路標示工事
道路標識工事	橋梁塗装工事
樹脂系滑り止め舗装工事	
一般土工事業	融雪剤販売
安全保安用品販売	



ナラサキライン株式会社

所在地 〒054-0052 北海道勇払郡むかわ町大成1丁目40番地
 代表者 代表取締役 大野 一郎 創業 昭和49年7月
 TEL 0145-42-2071 FAX 0145-42-5194 E-mail n-line2@road.ocn.ne.jp

当社は、昭和49年創業の路面標示工事を主体とする建設会社です。主に胆振、日高エリアにおいて、北海道開発局や道内諸官庁のご愛顧をいただき着実な実績をあげております。

《業務内容》

建設業許可：一般建設業

北海道知事許可（般-27）胆第354号



一般国道37号洞爺湖町外区画線工事

○ 支部の活動に参加しませんか ○

《北海道開発局所管施設等の災害応急対策業務に関する協定》

- ・ 本協定に基づく応急処置に係る業務を実施できる会員を募集しています。
- ・ 支援内容や支援地域の限定も可能です。
- ・ 現在、建設機械会社12社、建設会社50社、機械設備会社14社等が支援体制に参加しています。

《ICT活用施工連絡会》

- ・ i-Constructioを推進していくための官民の情報共有を行っています。
- ・ 現在、建設会社16社、建機・測量機器会社22社が参加しています。

※詳しくは、北海道支部事務局（011-231-4428）へお問い合わせ下さい。

支部（下半期）行事予定表

[10月]

・除雪機械技術講習会

10月3日(木)：網走市、

オホーツク・文化交流センター

受講者118名

10月24日(木)：帯広市、とかち館、受講者149名

10月29日(火)：札幌市B、北海道建設会館、

受講者150名



除雪機械技術講習会(網走会場)



除雪機械技術講習会(帯広会場)



除雪機械技術講習会(札幌B会場)

・令和元年度建設工事等見学会（13頁に報告）

10月15日(火) ①オニキシベ小水力発電設備建設現場(厚幌ダム)

②平取ダム建設工事現場

参加者31名

・建設技術担い手育成プロジェクト(出前授業)

10月17日(木) 岩見沢農業高校

(農業土木工学科2年生 35名)

【講習内容】 座学、実習



建設技術担い手育成プロジェクト(岩見沢農業高校)

・第2回企画部会

10月21日(月)：センチュリーロイヤルホテル

・第2回運営委員会

10月28日(月)：センチュリーロイヤルホテル

[11月]

・建設技術担い手育成プロジェクト(出前授業)

11月7日(木) 帯広工業高校
(環境土木科2年生 40名)

【講習内容】 座学、実習



建設技術担い手育成プロジェクト(帯広工業高校)

・外国人技能実習生評価試験(北海道地区定期試験)

11月27日(水)、28日(木)
札幌市(キャタピラー教習所)
受検者 初級63名、専門級17名



外国人技能実習生評価試験(実地試験)

[12月]

・建設技術担い手育成プロジェクト(出前授業)

12月2日(月) 函館工業高校
(環境土木科2年生 38名)

【講習内容】 座学、実習



建設技術担い手育成プロジェクト(函館工業高校)

・北海道支部親睦会

12月6日(金)：センチュリーロイヤルホテル
出席者66名

[1月]

・建設機械施工技術検定学科試験(第2回)

1月19日(日) 札幌市
(TKPビジネスセンター赤レンガ前)

受検者：2級115名(延144名)

2級(択一式種別)

第1種(トラクター系建設機械)：25名

第2種(ショベル系建設機械)：100名

第3種(モーター・グレーダー)：3名

第4種(締め固め建設機械)：9名

第5種(ほ装用建設機械)：3名、

第6種(基礎工事用建設機械)：4名



建設機械施工技術検定学科試験(第2回)

- ・ 2020ふゆトピアとまこまい ―除雪機械展示・実演会、競技会―（15頁に報告）
1月23日（木）～24日（金）：苫小牧市出光カルチャーパークグランド外

[2月]

- ・ 外国人技能実習生評価試験（北海道地区定期試験）
2月25日（火）
札幌市（キャタピラー教習所）
受検者 初級23名、専門級15名



外国人技能実習生評価試験（実地試験）

[3月]

- ・ 調査部会 3月2日（月）
 - ・ 広報部会 3月3日（火）
 - ・ 技術部会 3月5日（木）
- 新型コロナウイルス感染拡大のため中止し、資料配布により実施

- ・ 北海道開発局との意見交換会（10頁に報告）

新型コロナウイルス感染拡大のため中止し、意見要望に対する回答は本紙に掲載

編集後記

今年はオリンピック・パラリンピックで日本中が沸き立つと思いきやじわじわと押し寄せる新型コロナウイルス感染症の脅威。3月11日にはとうとうWHOがパンデミック宣言を出し、その後、欧米でも凄まじい勢いで猛威を振るい世界経済をも混乱に巻き込むなど、この目に見えない敵はどこまで暴れまくるのか想像もつきません。諸外国に比べどこか平和そうな日本ですが、会員企業の多くは会議や宴会の自粛が続く中で新年度を迎えられたことと思います。「朝の来ない夜はない」苦しい状況はいつまでも続くものではなく、いずれ好転するものというたとえですが、感染拡大が早く収まり暗い夜が明けることを願うばかりです。

さて、本号の巻頭言は、札幌市建設局の土井雪対策室長にご執筆頂きました。新型コロナウイルスの話題に続き札幌市が取り組んでいるICTを活用した除雪の効率化、省力化についてご紹介頂いたところですが、少子高齢化に伴う除雪事業の在り方については積雪寒冷地の道路管理者共通の課題であり、今後も様々な取り組みが必要になっていくものと思います。

また、北海道開発局アイヌ施策推進課様からは、4月24日に開業を予定している「ウポポイ」についてご紹介を頂きました。展示内容や体験プログラムは非常に興味深いもので、アイヌ文化の発信拠点として多くの人に訪れてもらいたいものです。

本号では、このほかにも多くの記事を掲載させていただきましたが、ご多忙中にもかかわらず寄稿していただいた皆様に、心からお礼申し上げます。

広報部会 古賀